

第1部 2007年度決算概要及び2008年度業績予想
副社長 木下 幸雄 (15分)

第2部 経営戦略
社長 中村 吉伸 (20分)

第3部 質疑

第1部 2007年度決算概要及び 2008年度業績予想

副社長 木下幸雄

2007年度業績サマリー

単位:億円

ポイント

(1) 全ての項目で過去最高を更新

... 受注高、当期純利益は5期連続
営業利益、経常利益は2期連続
売上高は11年ぶり

(2) 5期連続増収

<受注高>

建機、標準量産が好調

<売上高>

環境、機械、建機が大幅に増加

<営業利益>

環境・船舶鉄構が大幅に増加

<経常利益> 持分法投資利益減少

	2007年度	2006年度	差異
受注高	7,164	7,074	90
売上高	6,608	6,003	605
営業利益	778	642	136
営業利益率	11.8%	10.7%	1.1%
経常利益	755	653	101
経常利益率	11.4%	10.9%	0.5%
特別損益	30	24	6
当期純利益	430	374	56
当期純利益率	6.5%	6.2%	0.3%
ROIC(税引後)	14.0%	12.2%	1.8%
有利子負債残高	896	880	15

セグメント別営業利益

単位:億円

標準・量産機械
プラスチックは増加したが、変減速機、精密その他が減少。

環境・プラントその他
ボイラ好調により好転。

船舶鉄構・機器
同型船種連続建造によりコストダウン進捗。鉄構・機器も好調。

機械
搬送システム、タービン、ポンプが好調。

建設機械
米国クレーン子会社好調。
ショベルは海外が好調。

	2007年度	2006年度	増減
標準・量産機械	282	297	15
環境・プラントその他	69	46	23
船舶鉄構・機器	141	65	76
機械	121	94	27
建設機械	163	136	27
合計	778	642	136

連結貸借対照表

単位: 億円

	2008/3末	2007/3末	増減		2008/3末	2007/3末	増減
流動資産	3,819	3,325	494	負債	4,323	3,949	374
現預金	303	482	179	買掛債務	1,670	1,509	161
売上債権	1,859	1,584	275	前受金	486	405	81
たな卸資産	1,305	1,005	299	有利子負債	896	880	15
その他	353	255	99	その他	1,271	1,155	116
固定資産	2,967	2,684	283	純資産	2,464	2,060	404
有形固定資産	2,045	1,851	193	株主資本	1,920	1,553	367
無形固定資産	158	63	95	評価・換算差額等	451	493	43
投資その他の資産	765	770	5	少数株主持分	93	13	80
合計	6,786	6,009	777	合計	6,786	6,009	777
				有利子負債比率	13.2%	14.7%	1.5%
				自己資本比率	34.9%	34.1%	0.8%

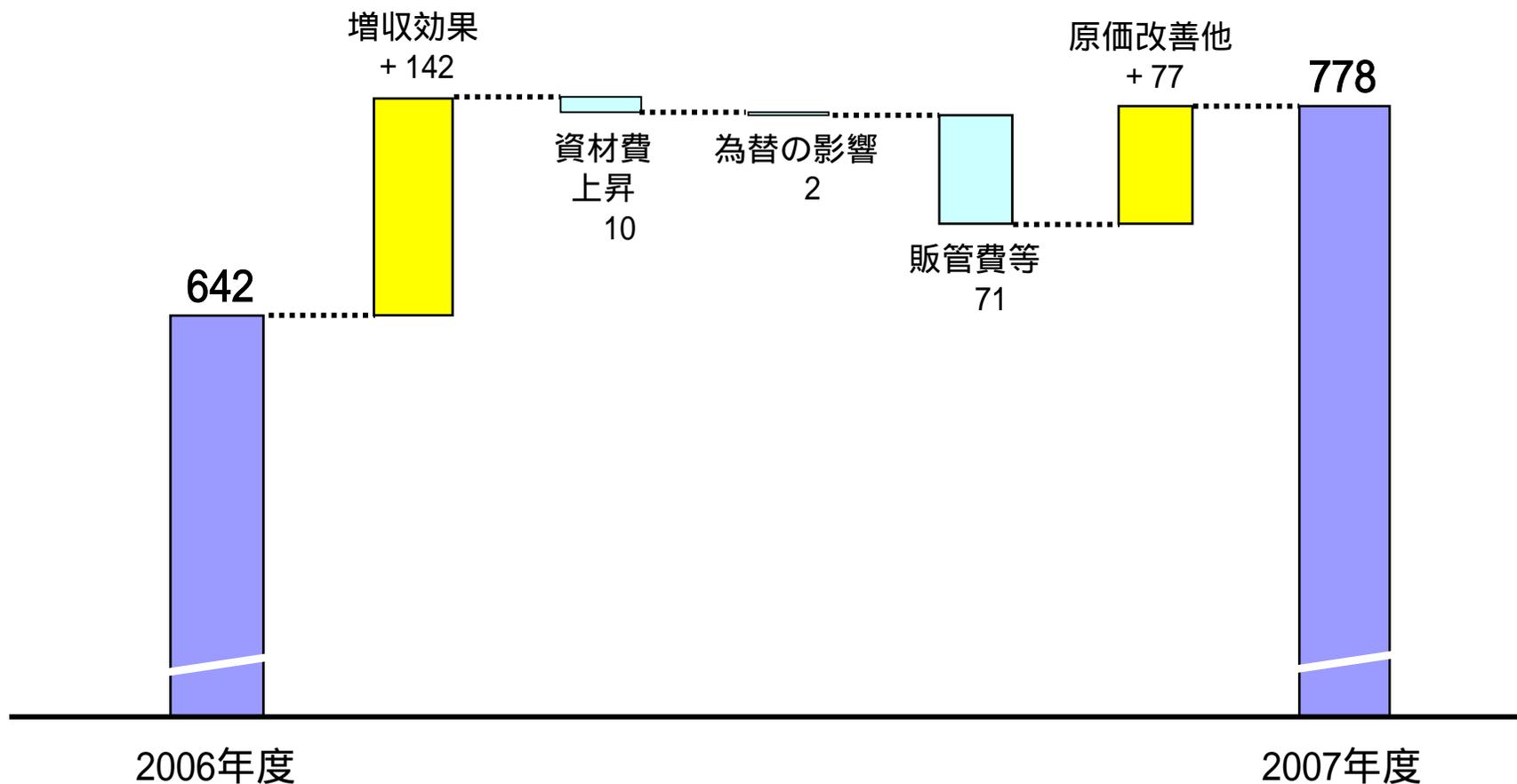
連結キャッシュフロー計算書

単位：億円

区分	2007年度	2006年度	増減
営業活動	291	568	277
運転資本	255	103	358
利払い前事業収益	877	725	152
その他	330	260	70
投資活動	413	125	288
フリーキャッシュ・フロー	122	443	565
財務活動	52	412	360
現金・現金同等物増減	175	34	209
現金・現金同等物期末残高	299	475	176

営業利益増減分析(06 - 07年)

単位: 億円



2008年度業績予想

ポイント

- (1) 受注高、売上高は過去最高を更新見込み
- (2) 6期連続増収見込みだが、原材料費高騰、円高等により減益予想

- <受注高> 標準量産、環境で増加の見込み
 <売上高> 標準量産、建機で増加の見込み
 <営業利益> 原材料費高騰、為替の影響織込み

	2008上期予想	2007上期実績	2008年度予想	2007年度実績	単位:億円
受注高	3,600	3,438	7,700	7,164	
売上高	3,450	3,051	7,400	6,608	
営業利益	310	350	750	778	
営業利益率	9.0%	11.5%	10.1%	11.8%	
経常利益	290	350	720	755	
経常利益率	8.4%	11.5%	9.7%	11.4%	
特別損益	0	22	0	30	
当期利益	160	202	410	430	
当期利益率	4.6%	6.6%	5.5%	6.5%	
配当	6円	5円	12円	10円	
配当性向			17.7%	14.0%	
ROIC (税引後)			11.8%	14.0%	
織込レート(ドル)			100円	112円	

2008年度セグメント別受注、売り上げ、営業利益予想

1-7

単位: 億円

		2008上期 予想	2007上期 実績	増減	2008年度 予想	2007年度 実績	増減
標準・量産 機械	受注高	1,400	1,214	186	2,900	2,474	426
	売上高	1,290	1,102	188	2,800	2,326	474
	営業利益	125	127	2	300	282	18
環境・プラント その他	受注高	470	431	39	1,100	918	182
	売上高	375	353	22	1,000	912	88
	営業利益	15	19	4	80	69	11
船舶鉄構・ 機器	受注高	255	360	105	800	907	107
	売上高	380	311	69	800	764	36
	営業利益	55	57	2	110	141	31
機械	受注高	475	486	11	900	988	88
	売上高	375	385	10	830	812	18
	営業利益	40	55	15	100	121	21
建設機械	受注高	1,000	946	54	2,000	1,877	123
	売上高	1,030	899	131	1,970	1,794	176
	営業利益	75	90	15	160	163	3
合計	受注高	3,600	3,438	162	7,700	7,164	536
	売上高	3,450	3,051	399	7,400	6,608	792
	営業利益	310	350	40	750	778	28

第2部 経営戦略

社長 中村 吉伸

「躍進07」の総括

「躍進07」(2005-2007年度)計画目標と結果・評価

「成長・拡大のトップライングロース」へ

実績と評価

中期目標

- 一流商品を提供する
『組織的知識創造企業』への脱皮
- 垂直統合型事業モデル
- キーコンポーネント事業の拡大・強化

商品力の強化と「躍進商品」の市場への投入
事業間連携の強化とコンポーネント事業の拡大 ~ PTCとメカトロの融合

● 05/5 当初数値目標(2007年度末)		(07/11 予想)
ROIC	10%以上	13.7%
営業利益	600億円以上	770億円
有利子負債	1,500億円以下	900億円以下

全目標値1年前倒しで達成

上積み目標も達成

06年度 実績

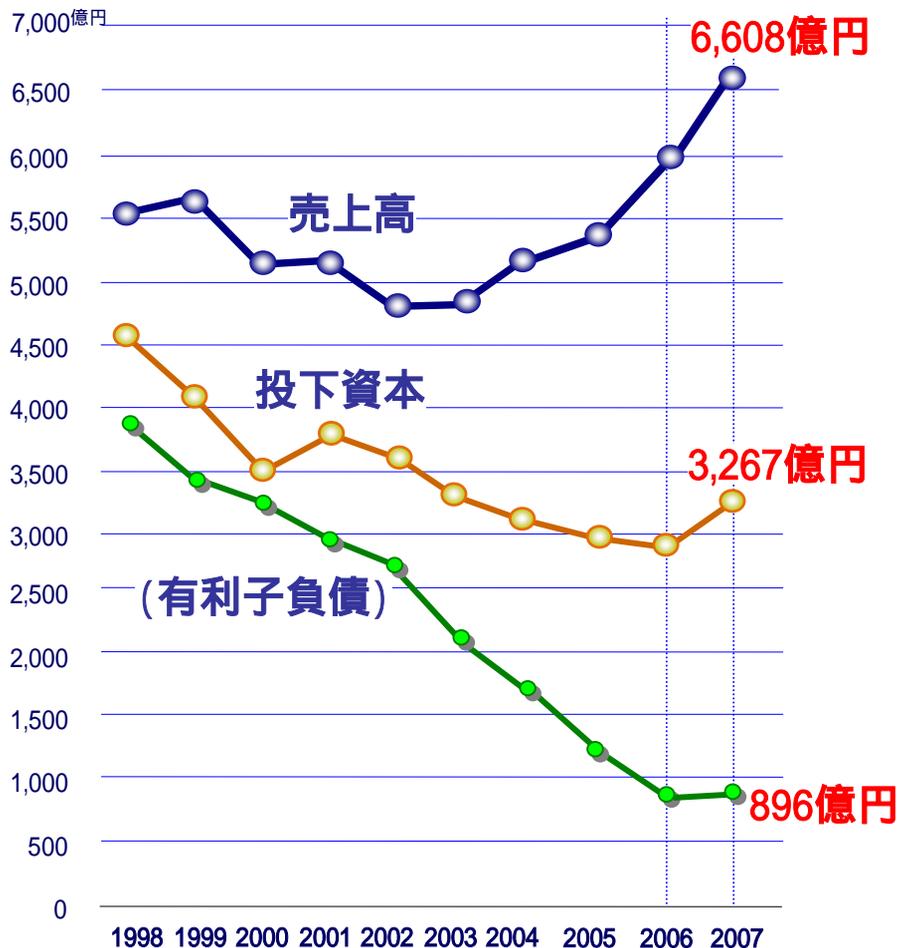
07年度 実績

ROIC	12.2%	14.0%
営業利益	642億円	778億円
有利子負債	880億円	896億円

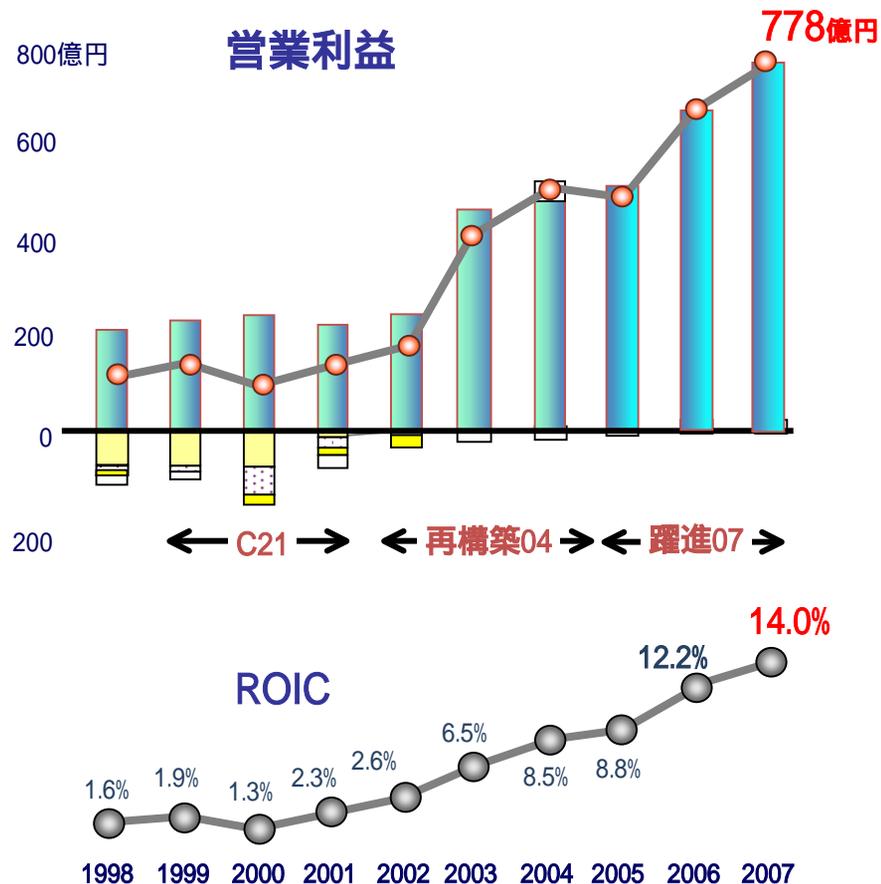
「躍進07」業績推移

07年度実績 売上高 6,608億円、営業利益 778億円を達成

売上高・投下資本



営業利益・ROIC



セグメント別 「躍進07」計画・実績予想差異

セグメント	07実績(05/5当初計画比較)		差異の理由
	売上高	営業利益	
標準・量産機械	2,326 (174) 億円	282 (78) 億円	<ul style="list-style-type: none"> ・PTCの伸び悩み ・プチ機のディスク市場の停滞 ・精密の半導体、液晶関連市場停滞
環境・プラント その他	913 (87)	69 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・官公需事業縮小、撤退による
船舶鉄構・機器	764 (+ 114)	141 (+ 106)	<ul style="list-style-type: none"> ・素材、エネルギー、輸送等の産業 インフラ関連需要が予想以上に伸長
機械	812 (+ 162)	121 (+ 66)	
建設機械	1,794 (+ 594)	163 (+ 83)	<ul style="list-style-type: none"> ・北米のモバイルクレーン、アジアその他海外のショベル需要が予想以上に伸長
合計	6,608 (+ 608)	778 (+ 178)	

**中期経営計画「グローバル21」
(2008～2010年度)
のポイント**

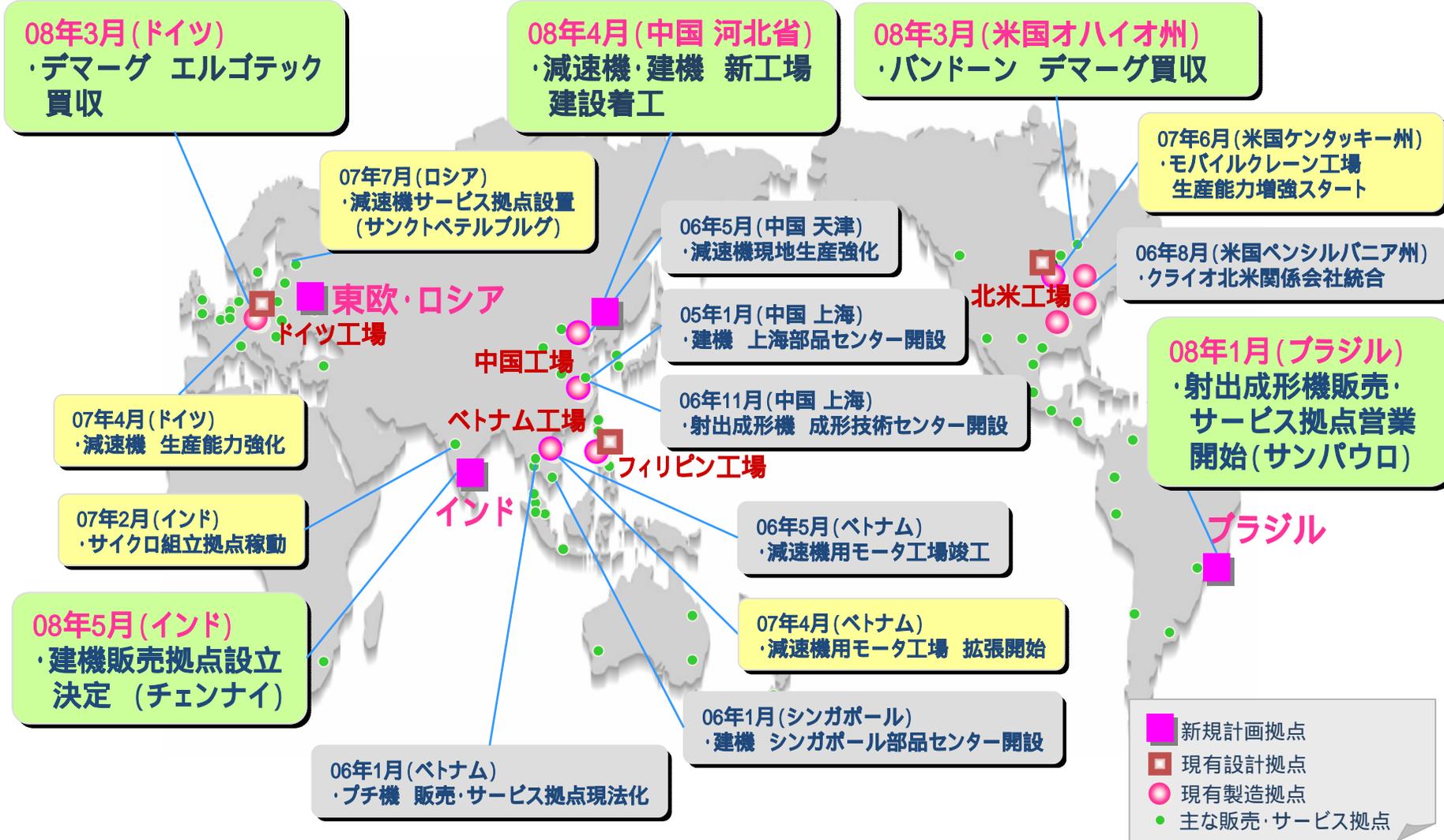
中期経営計画「グローバル21」の枠組み

「世界の住友重機械へ」

財務目標値	2010年度 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>売上高</td> <td>8,500億円</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>1,000億円</td> </tr> <tr> <td>ROIC</td> <td>10%以上</td> </tr> </table>	売上高	8,500億円	営業利益	1,000億円	ROIC	10%以上
売上高	8,500億円						
営業利益	1,000億円						
ROIC	10%以上						
長期ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2015年までに売上高1兆円の企業に ■ 各事業シェアはトップ3位以内へ 						
成長キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバル化 ■ イノベーション 						
投資方針	3年間で設備投資1,000億円、研究開発費500億円 ・グローバル拠点展開 ・「一流商品」創り						
事業ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 標準・量産機械、建設機械系： グローバル展開による量的拡大 ■ 精密機械系： フロンティア分野としての事業規模拡大 ■ 重機械・プラント系： 得意分野の商品に集中し、グローバルに拡販 						

グローバル拠点投資

拠点インフラの新設・増強推進



一流商品化投資

競争力強化でグローバルに通用する「一流商品」へ

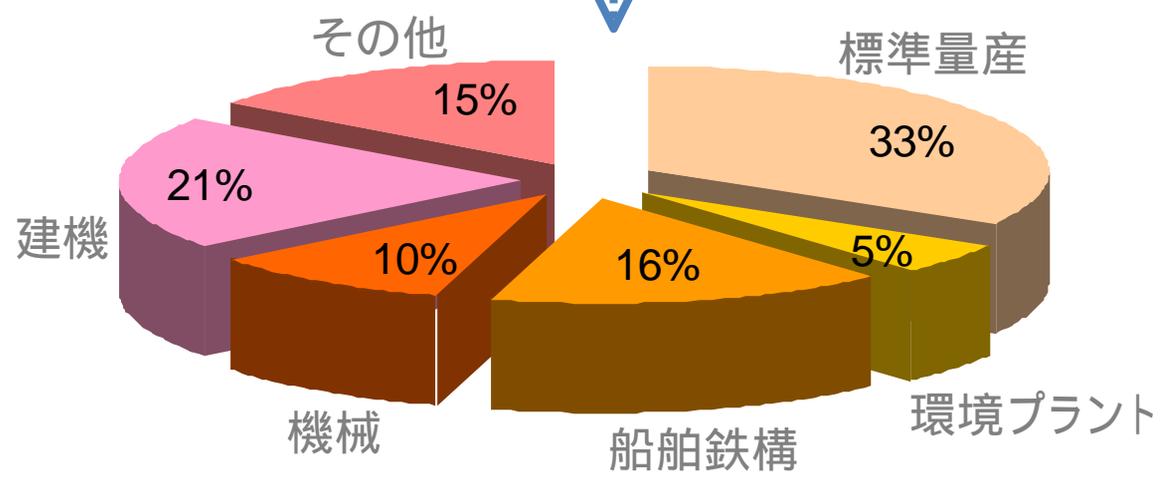
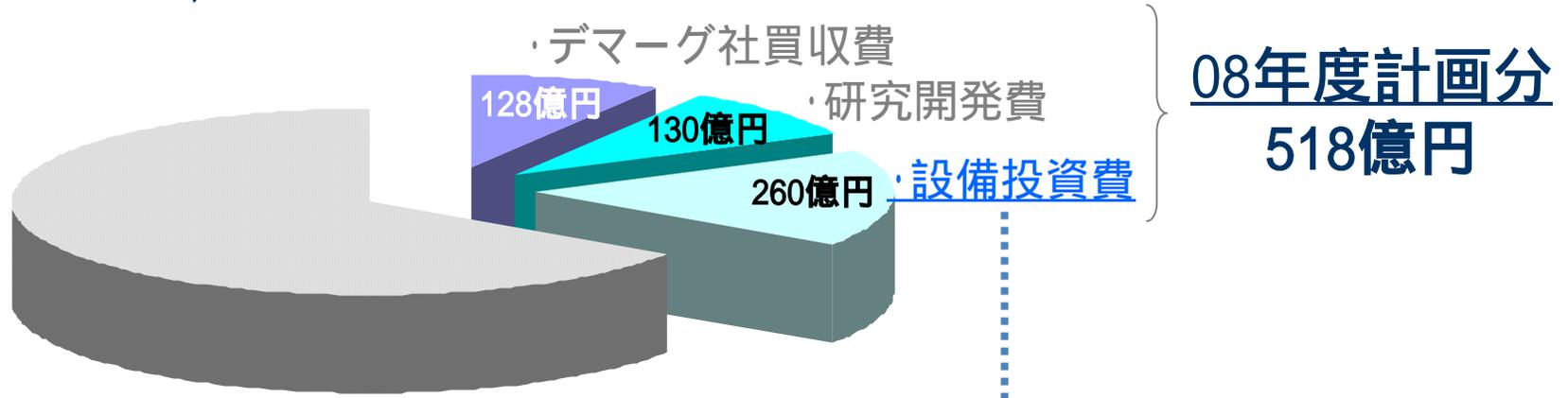
One-SHIシナジーモデルによる
差別化、競争優位の確立



2008年度 セグメント別重点施策

08年度投資計画

08-10年通算 総投資予算枠 1,500億円



08年度セグメント別施策まとめ

セグメント	07年実績		市況見通し	施策	08年予想	
	売上高	営業利益			売上高	営業利益
標準・量産機械 / PTC	968 億円			・アジア、欧米市場拡販 ・内製化推進	1,050 億円	
標準・量産機械 / プチ機	589 億円	282 億円		・デマージェ社とのシナジー追求 ・IT、自動車向け強化	930 億円 含 デマージェ	300 億円
標準・量産機械 / 精密ほか	769 億円			・PETアジア展開 ・クライオポンプ事業拡大 ・メカトロコンポーネント事業拡大	820 億円	
標準・量産機械 小計	2,326 億円				2,800 億円	
環境・プラントその他	912 億円	69 億円		・国内市場深耕。アジア、北米で拡販 ・プロジェクトマネジメント力強化	1,000 億円	80 億円
船舶鉄構・機器	764 億円	141 億円		・資材費管理強化 ・標準船連続建造によるコストダウン ・反応容器製造能力増強	800 億円	110 億円
機械	812 億円	121 億円		・クレーン：鉄鋼業界深耕 ・タービン：アジア、北米で拡販 ・鍛造プレス：自動車分野拡大	830 億円	100 億円
建設機械	1,794 億円	163 億円		・ショベル：中国、アジア市場拡販 ・モバイルクレーン：品揃え拡販	1,970 億円	160 億円
合計	6,608 億円	778 億円		合計	7,400 億円	750 億円

変減速機:

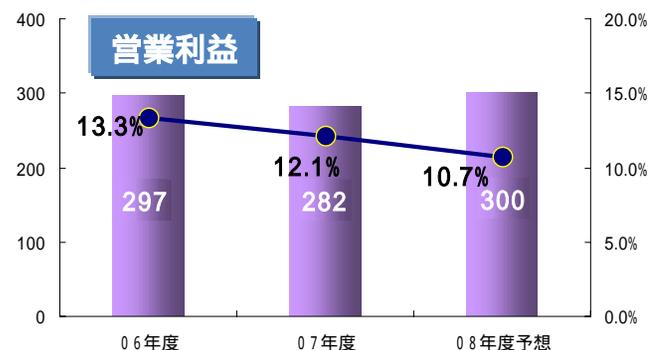
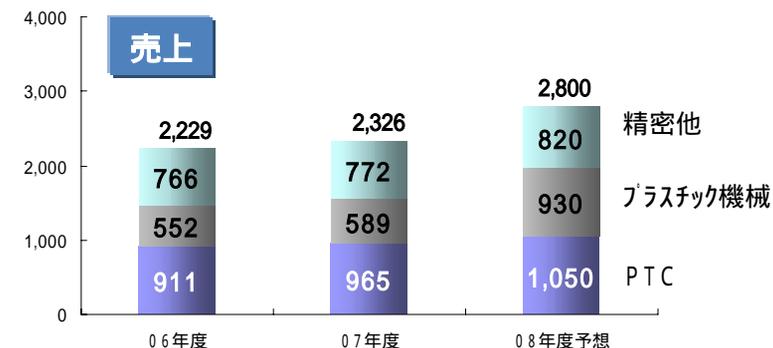
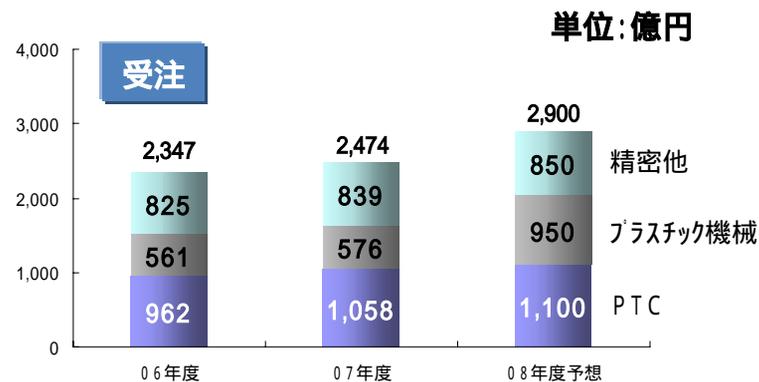
アジア、欧州、北南米での拡販を狙う。また、生産については、中国、ベトナム工場での内製化推進。特に唐山工場の早期立上げによるコストダウンを推進する。

プラスチック加工機械:

デマーク社とのシナジーを早期に追求する。アジア、欧州、北南米での販売力強化、IT市場でのシェアアップ、自動車市場での競争優位確立を目指す。



自動車業界向け
SE-HDシリーズ



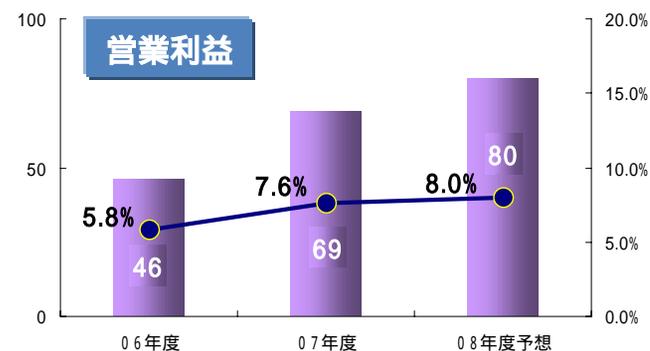
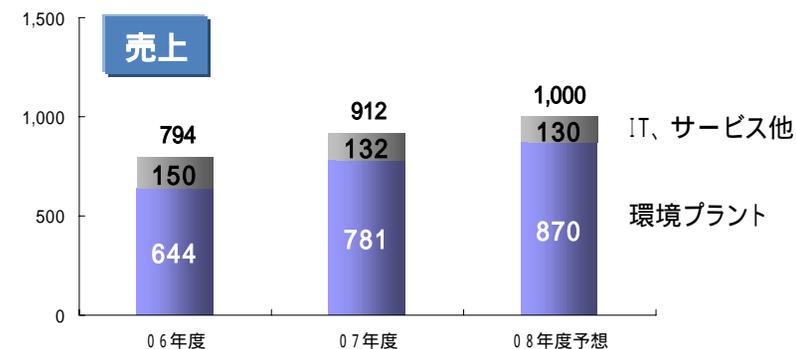
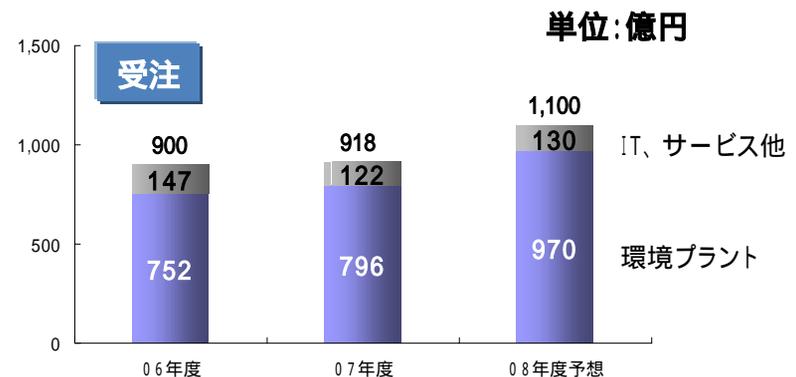
環境・プラントその他

エネルギープラント:

国内紙パ・化学市場の深耕を図る。海外はアジア、北米を中心に展開加速。

水処理プラント:

既存市場(食品、紙パ、鉄鋼)の更なる深耕。商品力強化による新規分野開拓への足がかりを築く。



船舶鉄構・機器

船舶:

中型タンカーに注力して受注確保を図る。TPSによる生産性向上を一層推進し、コストダウンを進める。

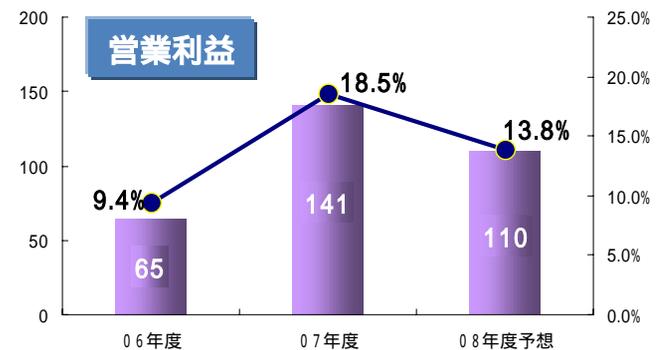
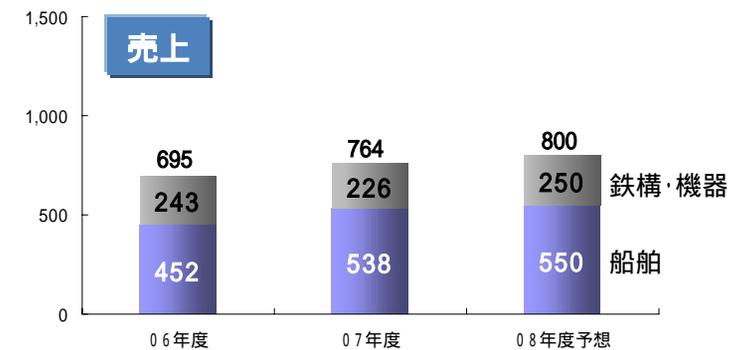
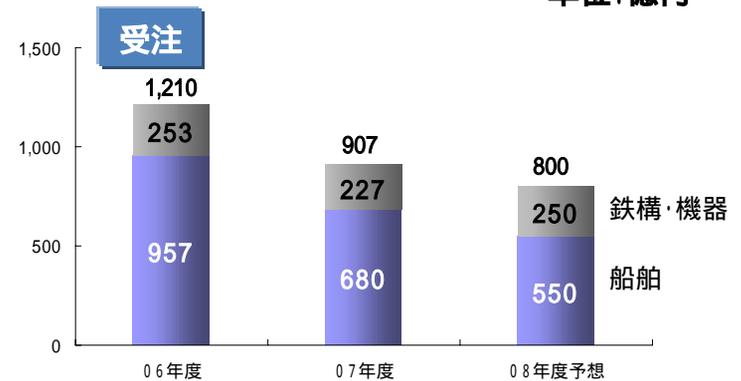
鉄構機器:

反応容器について生産性向上を行い、コストダウンを進める。また、攪拌機については高機能樹脂を中心として国内市場の深耕を行うとともに、海外展開を進める。



アフラマックス型
タンカー

単位:億円



運搬機械:

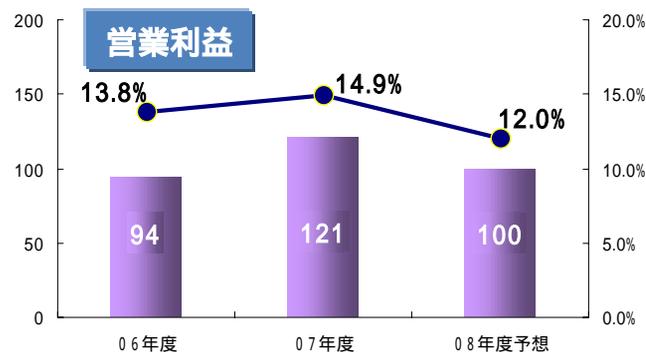
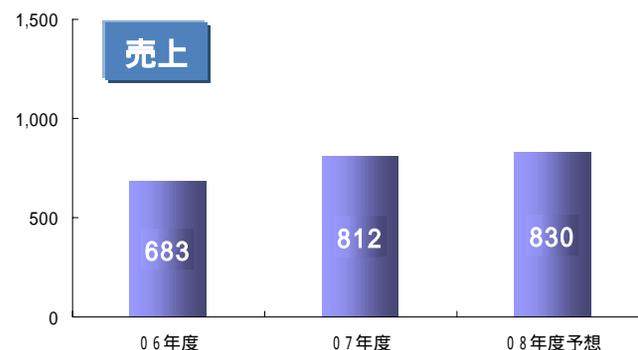
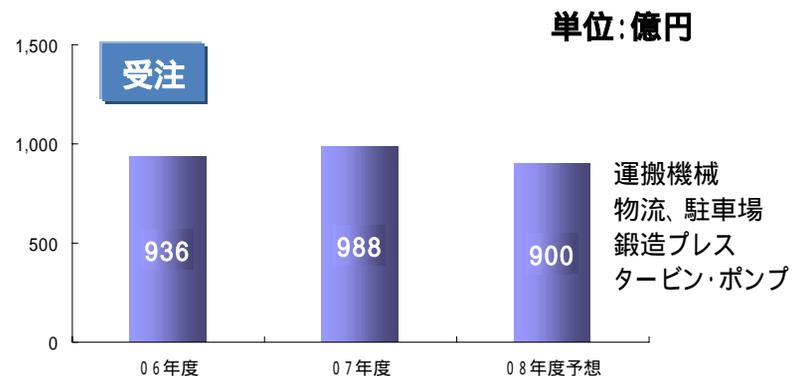
国内の鉄鋼業界への深耕。生産能力増強により製品の安定供給とコストダウンを進める。

タービン・ポンプ:

インド、北米、東南アジアでの拡販を継続し、内製強化と調達力強化によりコストダウンを進める。



発電用蒸気タービン



ショベル:

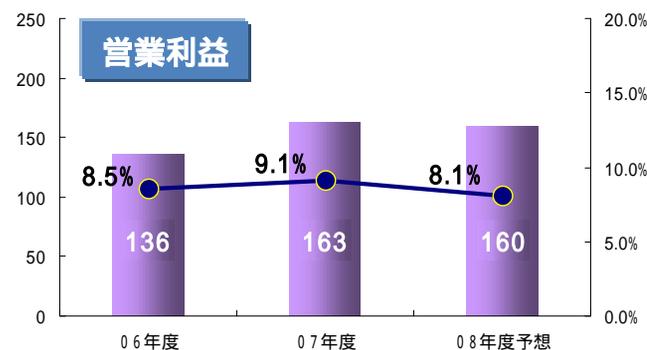
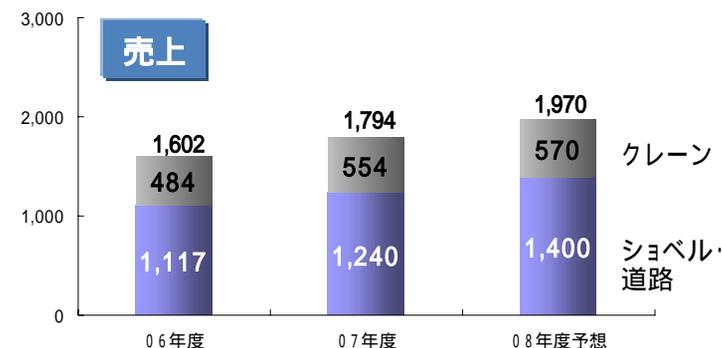
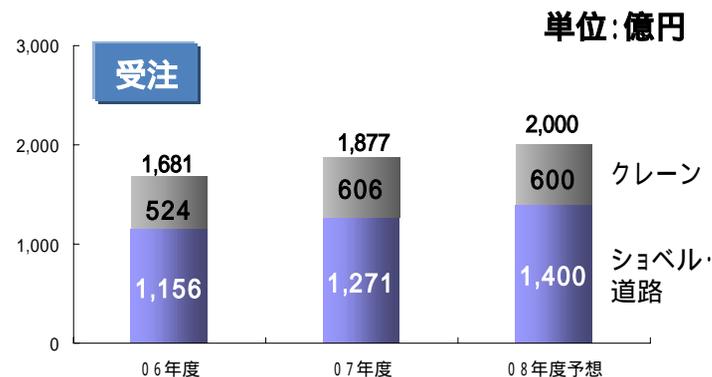
中国、インド等アジア市場での拡販を進める。また、中国唐山工場の早期立上と千葉工場1万2千台生産体制確立を行うとともに、コストダウンを進める。

クレーン:

新商品投入による北米シェア向上を図り、増産設備の本格稼働による内部付加価値増大を狙う。



油圧ショベル
「LEGEST」

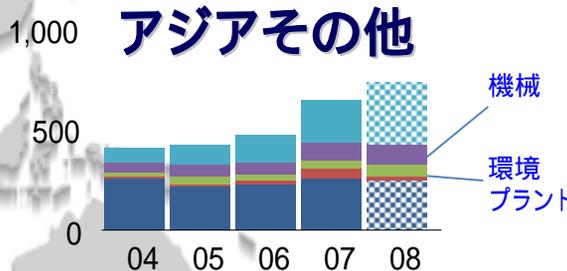
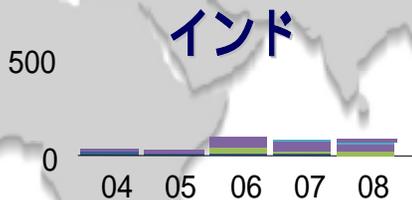
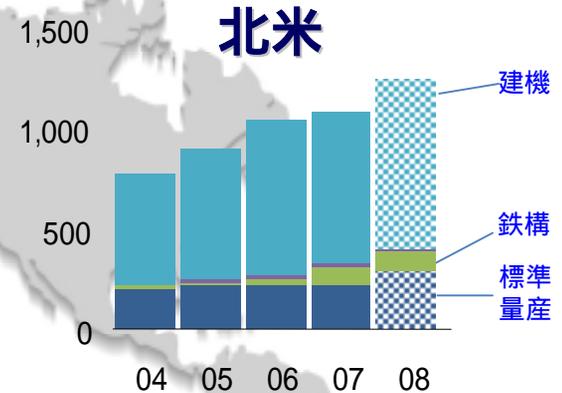
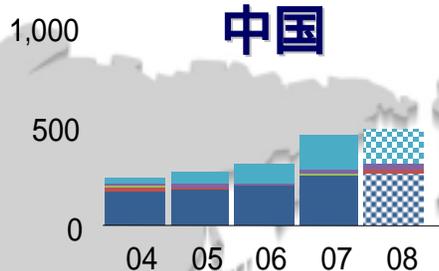
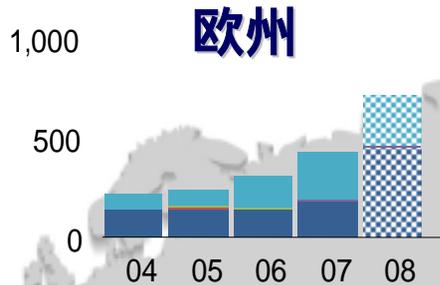


グローバル販売計画

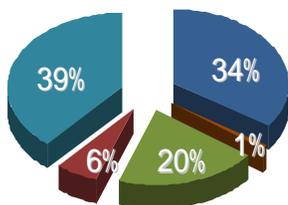
全地域にわたり標準量産、建機の拡大に注力

単位: 億円

* 棒グラフに船舶は含まない

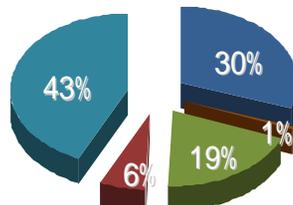


海外売上高(比率)
2,303億円 (42%)



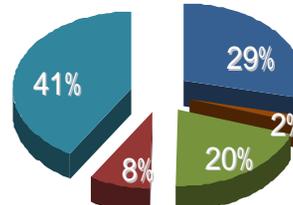
2005

2,761億円 (46%)



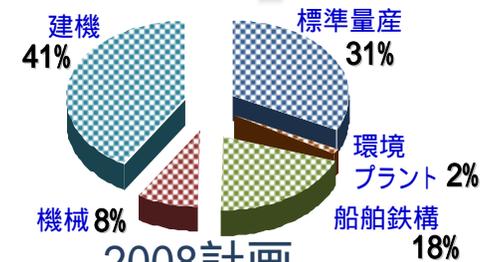
2006

3,318億円 (50%)



2007実績

3,920億円 (53%)



2008計画

M & Aについて

デマーグ・プラスチック・グループの買収の狙い

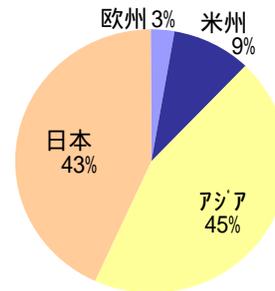
- ✓ 世界市場でのブランド力・販売力強化
- ✓ 欧州・BRICs市場での販売拡大
- ✓ グローバルNO.1の事業規模

地域別機種展開状況

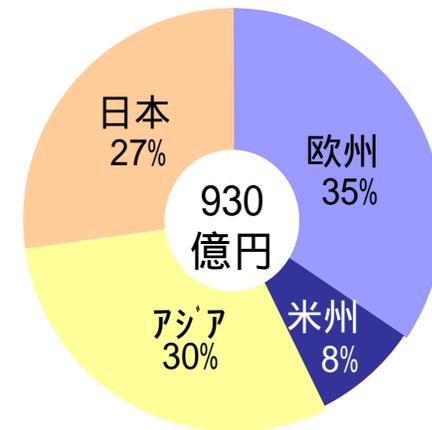
	住友重機械	デマーグ	
	電動機アジア仕様	電動機欧州仕様	油圧機
欧州・ロシア			
日本			
中国・アジア			
北米・南米			
インド			

当社の強み

- ・アジア地域での販売力
- ・電動化技術、精密ハイサイクル

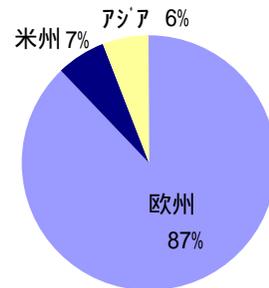


08年度
射出成形機 売上高予想



デマーグの強み

- ・欧州、ロシア地域のブランド力、販売チャンネル
- ・自動車、パッケージ市場に強い



アクセリス買収提案の目的、内容と経緯

目的

半導体メーカーの集約化・巨大化と、設備投資金額の飛躍的な増加および開発スピードのアップに対応するため、アクセリスとSENの商品開発力、技術力、顧客基盤を一体化すること。

内容

- 買収提案価格** 1株あたり6.00ドル、総額6億3000万ドル
08年2月8日のアクセリス・テクノロジーズ社株式の終値4.04ドルに対し、48.5%のプレミアムを加えた。
- 買収スキーム**
- (1) 友好的買収を前提とする。
 - (2) 米国企業の買収および買収後の運営ノウハウを持つTPGがマイノリティ株主として参加

経緯

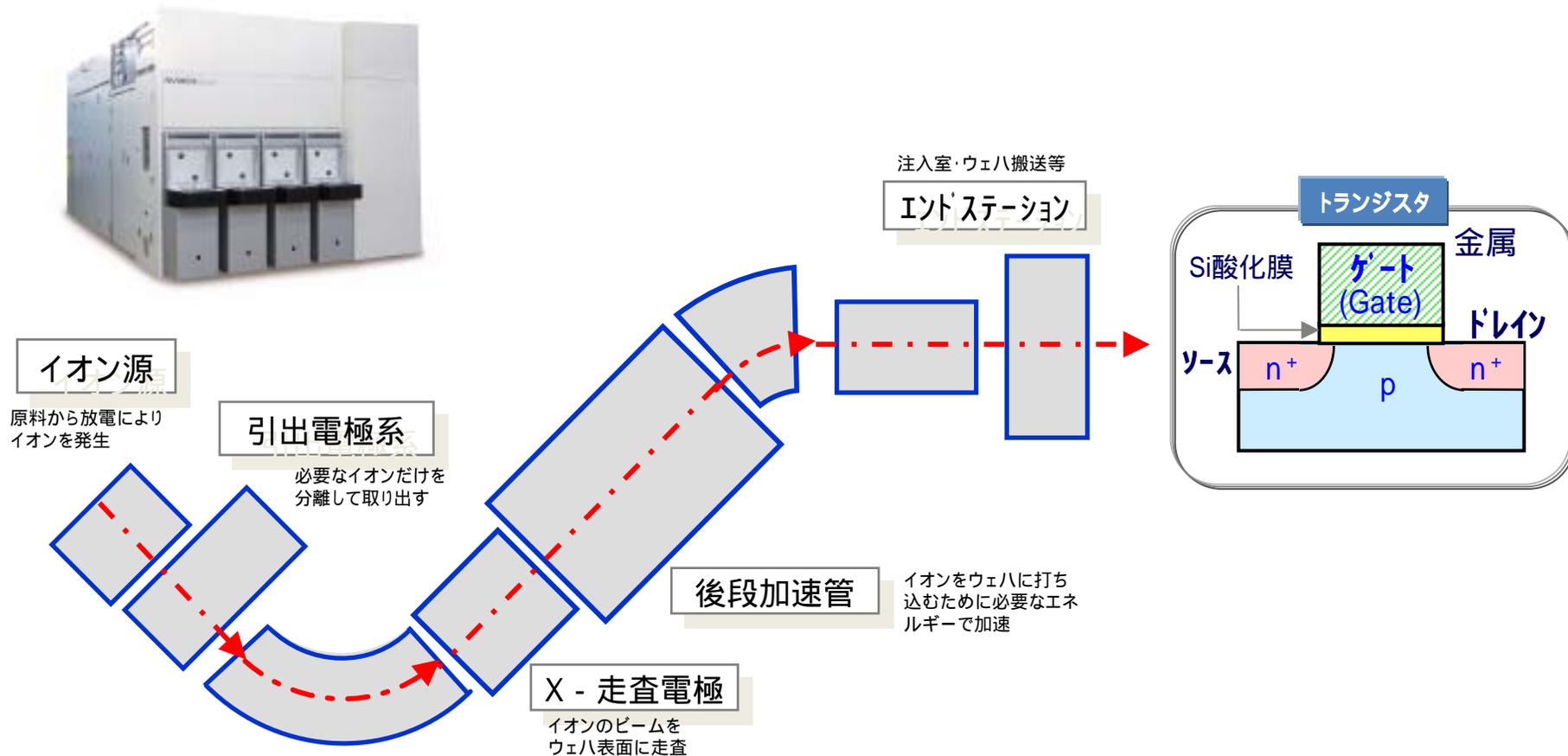
2008. 2.4 アクセリス・テクノロジーズ社に買収提案(1株あたり5.20米ドル、総額5億4400万ドル)
- 2.11 買収提案について公開
- 2.25 アクセリスが当社提案を拒否と公開
- 3.10 買収提案価格引き上げ(1株あたり5.20 6.00米ドル)

SENの概要

社名	株式会社SEN - SHI・アクセリスカンパニー		
設立	1983年4月		
売上高	SEN	(参考)アクセリス	
	06年度	329 億円	461 百万ドル
	07年度	225 億円	404 百万ドル

イオン注入装置とは？

半導体(半導体素子)を構成するトランジスタ等を作るためには、ウエハと呼ばれるシリコン単結晶の薄板に、所要の種類 / 量の元素を所要の深さに精度良く添加する必要がある。イオン注入装置はこれを高い生産性と精度で行う装置。添加すべき元素を電気的にイオン化して、高電圧で加速を行い、物理的にウエハの中に注入する。



One-SHI シナジーモデル

One-SHI シナジーモデルによる
差別化、競争優位の確立



買収防衛策について

買収防衛策概要

当社は5月13日開催の取締役会で買収防衛策について下記のとおり決議いたしました。

買収防衛策 導入の目的

- ・濫用的な買収者に対し、企業価値および株主共同の利益の確保・向上の為の措置を講じる
- ・買収提案検討の為の時間と情報の確保
- ・買収者との交渉の機会の確保

採用するプラン

- ・事前警告型買収防衛策

トリガー条項

- ・20%以上の議決権保有または保有を目指す公開買付等

プランの有効期間

- ・次回定時株主総会終了後3年間

プランの廃止

- ・次回定時株主総会での否決、定時株主総会での廃止の決定、取締役会による廃止の決議

企業価値委員 会の設置

- ・社外取締役、社外監査役、社外有識者の3名以上で構成

株主意思の確認

- ・次回定時株主総会に議案として付議予定

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。